



## レジリエンスを身に付けよう



みなさんは、「レジリエンス」という言葉を聞いたことがありますか。日本語では「回復力」「復元力」とか「弾力性」と訳されています。今、この言葉が注目されています。

アメリカのサンフランシスコの近くに、シリコンバレーと呼ばれる地域があります。アップル、グーグル、フェイスブックといった世界的に有名な企業があり、世界をリードする、時代の最先端をいく企業が密集している場所です。このシリコンバ

レーの企業の採用試験面接では、受験者に「今までで一番大きな失敗は何か？」と質問するそうです。聞き方は違って、多くの企業が受験者の失敗経験を尋ねるというのです。なぜこの質問をするのか。世界のトップを走る企業は、世界中に今までなかったものを作り出したり、誰もやったことのないことに挑戦したりしてくのですから、当然、最初からうまくいくはずはありません。何百、何千という失敗を繰り返しながら、新しいものを生み出していくのです。そのためには、失敗に凹（へこ）んだり負けたりせず、それを乗り越えることのできる人が必要だからです。失敗した経験のない人は不合格です。失敗が大きければ大きいほど評価されるそうです。なぜなら、大きな失敗を乗り越えてきたという経験が役に立つからです。ある企業の担当者は「凹（へこ）んでも前を向ける」人を採用すると表現していました。もちろん、全力を尽くしたけど失敗したという経験が大切です。「自分なりのその時のベストを尽くしたんだけどダメだった。この失敗した経験を生かし、次はこうしたい」と考えられる人が求められているのです。「失敗は恥ずかしいことではない。恥ずべきは、そこから立ち上がらないことだ」。もっと具体的にみなさんに伝えるために、世界各地に伝わる「同じことが起こっても、考え方だけで正反対の結果になる」話を3つ紹介します。

◆ 田舎から二人の若者が、花のお江戸に仕事を求めて出てきました。そうしますと、江戸では街角で一杯の水を売っている人がいます。二人はそれを見て驚きます。一人の若者は、「なんと江戸では一杯の水も金を払わないと手に入らないのか。このようなところでは、とうてい住み続けることはできない」と気を落として田舎へ帰ってしまいました。

ところが、もう一人の若者は、「これはおもしろい。江戸では一杯の水を売ってさえ商売ができるのか。知恵を働かせれば商売の道は無限だな」と胸をおどらせて江戸に残ることにしたというのです。

◆ ボブとトニーが広大な砂漠をラクダに乗って旅をしていました。ある日、運悪く盗賊（とうぞく）の一回に出くわし、二人とも捕らえられて、鉄製の柵の檻（おり）に閉じ込められました。ボブは、目の前に広がる砂漠を見て、「見渡す限り砂しか見えない。俺はもう助からない」と絶望し、食事がのどを通らなくなって、病気になるし動けなくなってしまいました。

一方、トニーは、いつか助けが来ると信じて、昼間は無限に広がる青空、夜は満天の星を見て「何と美しい。この空はどこへつながっているのだろう。ここを出たら、この空のはてまで行ってみよう」と希望を持ち、ひどい食事でも残さず食べ、体力と気力がなくならないようにしました。10日ほど後、その盗賊団は別の盗賊団と出くわし、激しい戦いになり、二人が閉じ込められていた檻（おり）の鍵がこわれしました。このすきに、トニーは逃げ出し通りかかった商人たちに救われました。しかし、ボブは・・・。

◆ 二匹のカエルが、牛乳の入ったつぼの周りで飛び跳ねていましたが、突然、そのつぼに落ちてしまいました。一匹のカエルは、「ああもうだめだ」と叫んであきらめてしまいました。そして、ガーガー泣いて何もしないでじっとしているうちに溺（おぼ）れて死んでしまいました。

もう一匹のカエルも同じように落ちたのですが、何とかしようと思って、もがいて足を蹴っていっしょうけんめい泳ぎました。すると足の下が固まりました。牛乳がチーズになったのです。それで、ピョンとその上に乗って外に飛び出せました。